

## 財政の今後の見通しについて

伊藤 勝美



〔質問〕総務省は、国・地方の財政状況に関して、引き続き厳しい状況にあり歳出削減等を進めて財政健全化を図ることが喫緊の課題となっていると示している。こうした状況は白石市においても同様であり、今後さらなる人口減少と少子高齢化がもたらす税収減の中、老朽化したインフラ、公共施設等の更新費用の増加により歳入減少・歳出増加という厳しい財政状況を迎えることが予測されるが、本市の財政状況について伺う。

ふるさと納税寄付金の受け入れが増えているものの、全体的には人口減少が著しく進んでいることなどが影響して、歳入における自主財源の占める割合が低く、地方交付税や国・県などの補助金の活用には依存する傾向が大きいとともに、基金の活用による財源調整によりバランスをとっている状況である。

〔質問〕今後の公共施設等の更新費用の増加を見据えた現時点での本市財政の中長期的な見通しはどのように推測されるのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕更新にあたっては、施設や設備の老朽化状況に応じた対応による増加が見込まれることから、中長期的な財政負担は増加する

ものと推測をしている。

また補助金や地方債で賄えない費用を補うための一般財源は、人口減少の影響を受けて減少するとともに、施設の更新などに伴って借り入れた地方債の償還費用は増加するものと推測している。このことから、本市では「白石市公共施設等総合管理計画」を策定し、長期的な視点で公共施設の全体像を全庁的に検討することで、効率的・効果的な公共施設の最適な配置を図るとともに、施設の安全に配慮した更新のタイミングと、地方債の償還費増加のバランスに注意を払う必要があると考えている。

### 〔その他の質問〕

◎新年度の当初予算編成について

◎デジタル教科書について

## 白石市博物館基本構想について

村上 由紀



平成17年に白石市博物館基本構想の答申が示され現在に至るまで、市民から多くの浄財も寄せられたが、20年間具体的な進捗はない。歴史文化を守るだけでなくそれを生かすためにも、当初の構想に捉われず実現可能な規模から検討する選択肢もあるのではないかと。

〔質問〕文化財の総点数と施設の課題を伺う。

〔答弁〕〔生涯学習課長〕寄贈資料が9872点、寄託資料が5万点以上、埋蔵文化財資料は約1700箱。保存施設は収蔵スペースが逼迫し、資料整理室も白石城歴史探訪ミュージアムも建設から40年以上経過し老朽化が進んでいる。

〔質問〕将来的なリスク評価を伺う。

〔答弁〕〔教育部長〕温湿度管理や耐震・防火性能が不十分となり、カビや虫害、腐食等による文化財の劣化、災害時の被害拡大、資料受け入れが制約され市外流出や散逸を招く恐れがある。

〔質問〕博物館建設は建設自体が目的ではなく、文化財を守り、未来につなぎ、市民が誇れる拠点を整備することに意義があると考えている。拠点整備の意義と評価を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕郷土ゆかりの資料や先人の歩みに触れることで、まちへの誇りと愛着が育まれ、シビックプライドを育む中核的拠点になる。また展示や講座、ワークショップ、学校教育との連携、世代や立場の異なる市民の交流の場を生み出し、地域「コミュニティ」の絆を強める役割

を果たすと認識している。博物館等施設を核とした魅力発信は観光や関係人口の拡大、地域経済の活性化にもつながると期待する。

〔質問〕今年は白石城開門30周年という「歴史のまち白石」にとって大きな節目の年で、拠点整備の検討を前に進める意義は大きいと考える。具体的な試算や比較検討に着手することを決断するのは今だと考える。市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕博物館等施設は、文化財保全、教育的効果や観光振興、地域経済への波及、郷土への誇りと愛着の醸成など、多面的な効果が期待できる。財政的に持続可能で、市民ニーズにも合致し、既存施設や周辺観光資源との連携、他施設との機能複合化の可能性を総合的に検討していかねばならない。まずは平成17年に答申を受けた博物館基本構想の見直しに着手したいと考えている。